

金伯柱『朝鮮半島冷戦と国際政治力学：対立からデタントへの道のり』（明石書店、2015 年）

本の概要：

グローバル冷戦が終結したにもかかわらず、なぜ朝鮮半島冷戦のみが持続するのか。朝鮮半島問題は南北朝鮮の分断という「現状」の維持（分断の国際的承認、「二つのコリア」）か変更（統一、「一つのコリア」）かをめぐって展開されてきた国際紛争である。本書はそうした分断国家問題としての朝鮮半島冷戦の本質を問い質す。

本書は、朝鮮半島冷戦が持続する原因を、朝鮮戦争停戦後朝鮮半島に訪れた三つのデタントの機会を事例として朝鮮問題をめぐる多国間関係の政治力学を分析することで見出そうとしたものである。南北朝鮮、日米中ソの6カ国からなる朝鮮半島冷戦の当事国が、①朝鮮戦争停戦協定の維持、②南北朝鮮の国連同時加盟、③クロス承認から構成される朝鮮半島の分断という現状維持の「制度化」に対して、現状維持もしくは現状変更のどちらを選好したのか、そして、その選好がどのように変容したのかを、関係諸国の外交史料に対する分析を通して明らかにしている。

以上の分析結果に基づいて、本書は、朝鮮半島デタントの失敗の原因が、一方で、朝鮮半島冷戦をめぐる主たる対立軸や6カ国の選好が変化したにもかかわらず、他方で、6カ国の選好が現状維持の制度化で依然として一致していないことにあると主張する。

著者略歴：

1974 年生まれ。2011 年東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得後退学。2011 年～2015 年東京大学大学院情報学環特任助教。2014 年、東京大学博士（学術）。現在、東京大学大学院総合文化研究科学術研究員。

[関連 URL] <http://www.akashi.co.jp/book/b209934.html>